



東 国 分 中 だ よ り

学校教育目標「夢や希望を抱き、生きる力を持った生徒の育成」

～知・徳・体の調和のとれた生徒～

<https://ichikawa-school.ed.jp/ekokubun-chu/>

令和7年11月5日

NO.13

東 国 分 爽 風 学 園

市 川 市 立 東 国 分 中 学 校

校 長 植 木 昭 貴

学校 HP



「TPO」について考えよう！



グローバル化や多様性社会が進み、昔よく見られた画一的・一元的な雰囲気から、様々な背景を持つ人それぞれが自分らしく過ごすことができ、なおかつ共存しやすい世の中へ変わりつつあるように思います。

学校教育においても「規則や集団の決まりを守らせる」指導から「場や状況に応じた適切な立ち振る舞いをわきまえたり使い分けができたりする能力」、いわゆる「TPO」を育む教育へと変容しつつあります。

TPOとは、「Time（時間）」・「Plase（場所）」・「Occasion（場合）」の3つの頭文字からなる和製英語で、「時と場所、場合に応じた方法・態度・服装等の使い分け」を意味する言葉です。

例えば、図書館で大きな声で話している人、道に広がって話している人、式典等の場に場違いともいえるような服装や態度で参加している人、仕事中に相応の理由なくものを食べている人など、その場の状況や雰囲気にそぐわない身なりや振る舞いをする人がいたら皆さんはどう感じますか？おそらく多くの人は不快感を覚えるのではないのでしょうか。中には「誰にも迷惑はかけていない」と言いたいものもあると思いますが、他者からすれば、場の雰囲気が壊されたりモチベーションが下がったりしてしまうものです。

私たちは、法令や公共の福祉に反しない範囲内であれば、個人の行動や思想、表現等の自由が保障されます。しかし、誰もが快適に過ごしたり、集団の雰囲気を盛り上げたり、効果的に物事を進めたりしていくためには、それぞれの人がその場の目的や意義、自分の立場等を理解し、どのような身なりや立ち振る舞いをしていくべきなのかを考えたり使い分けたりするなど、いわゆるTPOを意識していくことが必要です。

本校では、数年前から学校のルールに関する事項を「校則」から「学校生活の指針」という名称に変え、望ましい身なりや行動等を例示したうえで、生徒自身で適切に判断していくことを推奨しています。服装であれば、結果として同じ服装であっても、結論に至る理由が「守らないと怒られたり罰があったりするから」なのか、「自分でそうしようと考えた」なのかによって意味は大きく違ってきます。そもそも決まりやルールが設定されるには何らかの理由があるもので、一見窮屈に感じるようなルールも、様々な視点から考えてみることで、必要性が理解できるものもあると思います。まさに「TPO」について考える良い機会です。

大人になるにつれ、自分の責任で判断すべきことが増えてきます。多様性が進むこれからの時代において、TPOはこれまで以上に大切な資質になるといえるでしょう。そして、TPOを意識することは、「相手を思いやること」、そして「自分への信頼を守ること」にもつながります。自分の個性や主張を大切にすることも必要ですが、その場の雰囲気や立場をわきまえられない身なりや振る舞いは、決して格好いいものではありません。「自分らしさを持ちつつも、場に応じた使い分けができる格好良さ」を身に付けてほしいと思います。